



左から佐藤久夫事務局長、豊間根彬会長、佐々木清通副会長

道路功労者表彰を受ける

豊間根道路河川愛護会（豊間根彬会長）が社団法人日本道路協会から道路功労者として表彰を受けました。同愛護会は昭和41年に発足以来、国道45号沿いの空き缶や紙くずなどのごみ拾いをはじめ、豊間根川、荒川川の草刈りを実施。昭和60年からは国道45号の緑地帯に草花を植栽するほか、「花いっぱい運動」を町全体に広げるなど環境美化活動に貢献してきました。今回の受賞はこの長年にわたる地道な活動が大きく認められたものです。表彰式は8月24日、浄土ヶ浜パークホテルで行われました。豊間根会長は「この賞を励みに今後も地域全体で活動に取り組んでいきたい」と決意を新たにしていました。



本であると思う。保健センター機能訓練室で体力づくりをしてみませんか。あなたの施設です。有意義に利用して健康であることと命の尊さをあらためて真剣に考えてみませんか。心の健康も合わせて…。

小成宗平（北浜町・61歳）

園児たちと夏祭りを満喫

七月の小雨降る夕、織笠保育園のホールは、園児たちの浴衣姿がひととき目立ちかわいかった。ちようちんがつるさる、小雨も負けそうな夏祭り一色。「花火の歌」の一番は歌ったが、

二番は園児の歌声についていけなくなつて老いの脳を隠せなかった。和太鼓も、手や足さばきの演技に惜しみなく拍手を送りながら高い席にある自分の存在が小さいことを感じた。

盆踊り、夜店と流れに乗り楽しみ、いよいよクライマックス。雨も地球の一員と思いつつ小雨に煙る夜空に輝く花火を満喫した。お土産に「夜空に広がる花火」入りの手作りうちわを頂き、うれしくて家に帰り月日を書き入れました。小雨の中、円滑に夏祭りを進められた先生方、保護者の皆さま、ありがとうございました。

菊地サカエ（織笠・71歳）

乗った皆さんはもう日本本土に上陸したも同然です。ご苦労さまでした。ご安心ください」とアナウンスが流れた。私たちは戦友同士抱き合い号泣したあの日を終生忘れることがない。疲労しきつた私たちの乗船を笑顔で迎えてくれたあの時の日赤看護婦の表情も忘れがたい。

また戦争体験者が少なくなる未来に向け、惨事を風化させてはならないし、いつまでも語り継いでいきたいと同時に恒久平和を皆で誓いたいものだ。それにしても過酷な作業の末に栄養失調で亡くなった戦友をラゲル（捕虜収容所）の脇に埋葬してきたのを思うと、後ろ髪を引かれる思いで乗船したのだったが、お盆のつど彼の地に向かつて冥福を祈り合掌している。

齋藤忠雄（船越・80歳）

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

日に三度
粉と眼薬飲み下し
八十路の坂をトボトボ歩む
菊地孝進（船越・84歳）
小規模校
豊中魂爆発し
佐藤兼男（荒川・79歳）
風立ちぬ
野辺の薄に秋匂う
ペンネーム・夢子
（田の浜・65歳）

みんなのスペース



しばた かずや くん
(大浦保育園・6歳)

ぼくのゆめ
大きくなったらかっこいいサッカー選手になりたいな。

古里への便り⑩



ふる里山田同郷の会幹事
神奈川県横浜市
安藤 孝子 さん(74歳)
(川向町出身)

古里の皆さまこんにちは。紙面を借りてごあいさつできる機会をいただき、大変うれしく存じます。

離郷して半世紀過ぎました。年を重ねるごとに学生時代を思い出し、懐かしく思っていたとき還暦の集まりがあり、誰かが「私たちは修学旅行をしてないね」とつぶやきました。でもそのころは昭和二十二年の大火、翌二十三年のアイオン台風で被害は大変なものでした。集まりの中で、「それではこれ

から修学旅行を」と、出席者十八人で箱根旅行から始まり、楽しい旅行が催されるようになりました。それから十四年間、毎年(春秋二回)続いており、今年も伊勢、南紀周遊コース(伊勢神宮、熊野那智大社、那智山青岸渡寺)で世界遺産を巡り、悠久の日本文化を畏敬と感謝の気持ちで巡りました。

観光している時でも、旅館などでおいしい食事をしていても、やはり山田の美しい景色や新鮮でおいしい魚介類と比較し、「自分の古里が一番だ!」と、あらためて古里の良さを再認識致しました。今回参加できなかった同級生にせめて写真でも見せてあげたいと思い、掲載を

お願い致しました。秋の同級会で再会できることを楽しみにしています。

終わりにこの十四年間に何度も一緒にいるな所に行つたことのある旅行好きな数名の方が他界されました。ご冥福をお祈り致します。

